



蒲郡市民病院 地域医療連携室だより vol.21

発行／地域医療連携室 TEL 0533-66-2307 / FAX 0533-66-2308

『地域包括ケア病棟』 2 病棟 107 床で運用開始

蒲郡市民病院では、10月1日より新たに4階東病棟の56床を『地域包括ケア病棟』として運用を開始しました。これまで地域包括ケア病棟として運用してきました7階西病棟（51床）と合わせて、2病棟（計107床）で運用しています（病棟編成後の各病棟につきましては、下記のとおりです）。

高齢化が進む蒲郡市の状況を反映し、当院の入院患者の56.8%が70歳以上の高齢者となっております。『地域包括ケア病棟』では、急性期医療を終えて、すぐにご自宅や施設へ転帰することに不安のある患者さんに対し、最長60日という入院期間を使って、在宅復帰に向けた医学管理、診療、リハビリを行っています。医師や看護師、理学療法士などスタッフが一丸となって、患者さんが安心して退院後の生活を送ることができるよう「治し支える治療」を実践する場として活用されています。退院支援看護師やMSWが患者さんの退院支援や、退院後のケア、ご家族からの医療福祉相談に応じるなど、在宅医療のサポートも行っています。

(西病棟)		(東病棟)	
	地域包括ケア病棟 51 床 (8 床)	7階	7 対 1 病棟 42 床 (8 床)
	7 対 1 病棟 41 床 (8 床)	6階	7 対 1 病棟 41 床
	7 対 1 病棟 37 床	5階	7 対 1 病棟 40 床 (8 床)
		4階	地域包括ケア病棟 56 床 (8 床)
	※ () 内は、開放型病床数 (計 40 床)	3階	7 対 1 病棟 14 床



市内医療機関マップ・紹介シートを設置

当院は患者さんの「かかりつけ医」への逆紹介を推進しています。このたび、市内の医療機関マップ、紹介シートを作成しました。地域医療連携室前に設置しており、紹介シートはご自由にお持ち帰りいただけます。作成には蒲郡市医師会様にご協力を頂きました。地域医療連携の推進と、「かかりつけ医」を選択する参考になれば幸いです。

地域医療連携ミニギャラリー ～第3回～

ギャラリーコーナーを地域医療連携室前に設け、ご来院の皆様から大変ご好評をいただいております。今回は「竹島」を描いた水彩画1点を展示します。ぜひともご鑑賞ください。



展示期間
11月1日～
12月28日
画 木村 格

裏面もご覧ください



平成 27 年度 病院情報 をホームページで公表

皆様に当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくことを目的として、「病院情報」をホームページに公表しました。病院情報は、DPC データから全国統一の定義と形式に基づいた指標で作成されています。「年齢階層別退院患者数」や「診療科別症例数のトップ3」など7項目の情報が統一指標で公表されるため、各病院の特徴や得意分野を把握できます。

蒲郡市民病院の病院情報を見ますと、入院患者のおよそ半数が65歳以上の高齢者となっている状況を反映して、内科系の症例では、「肺炎」や「誤嚥性肺炎」が多くなっています。外科では「鼠径ヘルニア腹腔鏡手術」、眼科では「白内障、水晶体の疾患」に関する手術が多くなっています。詳細は、当院のホームページをご覧ください。



在宅ケア見本市を開催

10/27
(木)

介護用品や介護食など展示紹介する『在宅ケア見本市』を市民病院1階のホスピタルモールにおいて開催しました。ベッド、エアーマット、車イス、電動リフトなどの介護用品や口腔ケア、紙オムツなどの介護用衛生用品の展示、宅配食の紹介のほか、やわらか食、とろみ食の試食など、快適で安心して在宅療養生活を送れる方法をご紹介します。来院された方々は、出展協力いただいた業者からの説明に耳を傾ける光景があちこちで見られました。



10/9
(日)

市民健康公開講座に協力

蒲郡市の健康推進科が開催している市民健康公開講座（4回シリーズ）の第1回講師として、当院の地域医療連携室長 石原医師（循環器科部長）が「高血圧って怖い？正しく知ろう高血圧」と題して講演されました。

蒲郡市は他市に比べ高血圧の薬を飲んでいる方、医者にかかっている方が多い状況です。血圧のメカニズム、高血圧の症状や治療、予防のための生活などについて、日ごろ診療に携わってみえる医師の立場からお話をされました。80名の参加者からは「判りやすく学べた」と大好評でした。



笑いがいっぱい、大盛況だった市民公開講座

9/17
(土)

蒲郡市医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会と蒲郡市、蒲郡市民病院の共催で、『蒲郡市民公開講座』が蒲郡市民会館中ホールで開催されました。『普段から何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう』をテーマに開催された講座には330名もの方が参加されました。第1部では、駒久家南朝こと、つげ耳鼻咽喉科の柘植院長が『笑い与健康』をテーマにした落語を披露され、満席の会場は大爆笑の渦につつまれました。

第2部は、『かかりつけ医ってなに？』をテーマとしたシンポジウムを実施。医師会を始めとする各団体のシンポジストが、それぞれの取り組みと、かかりつけ医（かかりつけ薬局）を持つことの重要性を伝えました。当院からは地域包括連携推進部長の佐藤医師が、逆紹介の推進や開放病床での共同診療の実施等、市民病院が身近な「かかりつけ医」と連携した診療を行っていることや、地域包括ケア病棟の特徴など発表すると、来場者は熱心に聞き入っていました。

